

平成22年1月

Montaser Ahmed Hesham Abdel Mohsen

## 学位論文審査要旨

主 査 中 島 健 二  
副主査 神 崎 晋  
同 大 野 耕 策

### 主論文

Associated factors in neonatal hypoglycemic brain injury

(新生児低血糖による脳障害の発生関連因子)

(著者：Montaser Ahmed Hesham Abdel Mohsen、前垣義弘、小倉加恵子、黒沢洋一、  
長田郁夫、神崎晋、大野耕策)

平成21年 Brain and Development 31巻 649頁～656頁

## 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、新生児低血糖による脳障害の背景を明らかにする目的で、鳥取大学医学部附属病院で新生児低血糖を示した60例を、知的障害、発達遅滞、脳性麻痺またはてんかんを合併した12名と神経学的後遺症のない48例に分類し、後方視的に関連する症状を検討したものである。この結果、低血糖が重症（15 mg/dl以下）で、低血糖の持続が長い例で、神経学的後遺症がおこることを明らかにした。さらに、後遺症を残した例では、妊娠中毒症、胎児仮死、1分のアプガースコア5点以下、新生児けいれん、病的な黄疸の合併が有意に高く、これらの合併が低血糖に伴う脳障害を悪化させるリスクファクターであることを明らかにした。新生児低血糖に伴う脳障害はまれではなく、そのリスクファクターは、新生児低血糖による二次的脳障害を予防する上で重要であり、明らかに学術の水準を高めたものと認める。